



### 近く行はるべき 警部補や署長の大異動

平は果して無風地帯か  
幹部ごころに緊張の色

特高課設置による警察官異動はその後沙汰済みとなつてゐるが、未だ特高課員数は不足をうけ警部補以下巡査部長巡査数名の配置がある筈であり、高等課員数も不足を告げてゐるので、當然異動は行はれるものと観られこ

### 不景氣深刻化し 昨今藝妓の廢業夥し

最近一ヶ月間廿餘名  
酌婦は廿餘名の増加

財界不況に祟られて縣下の花柳界は完く淋しい有様であり、各地花柳界關係方面では苦しみながらも空景氣を出して回復につとめて居るが財界が根本的に回復せぬため不況は深刻化して來て

### 花柳界

は近年にならぬ、不景氣のドン底に突き落されて居る、これがため縣下に於いて藝妓の廢業が馬鹿に多くなつて來て最近一ヶ月間に廢業したものが二十餘名もある、これに反して急激に増加して來たものは酌婦にして

### 縣下で

こゝ一ヶ月間に新に酌婦となつたものが三十餘名あるこの酌婦の激増の原因はさうしたものが判らぬが高い玉代を支拂

### 平の高齡者

合計五十一名

今秋行はせられる御大典に際し養老杯を下贈される平町の高齡者は五十六名であつたが一日までに死亡者二名を出し現在五十一名となつた

### 各驛現業員

競争激甚の兆

今や全国的にその選舉の渦中にある各驛現業員の選舉は鐵道從業員にとつて相當興味ある問題であるが常磐線平驛管内における前年度

の任期満了に依る次回現業委員改選は目下猛烈にその火ぶたが切られ来る二十日が選舉日のこととて今日

### 依然梅雨的の天候 農作物への影響憂慮

農作物への影響憂慮

北海道方面にコペリ付いて居る高氣壓は依然として其力を弱めず八丈島の南西八十哩の沖合に停滞して居る颱風は是又舊態を脱しない爲の梅雨的の天候は二三日繼續されるものと見られ温度は低く朝夕は多少の細雨が降る、而して颱風の勢力は大分弱くなつて居るから大雨はないが曇天続きで農作物への影響は甚だ憂慮すべき状態にある（四日朝小名濱測候所觀測）

### 全部を役 不動澤炭礦の 應急救濟施設

休業中も

最近の豪雨に因る坑内出水で今後約廿日間の休山を除儀なくされた石城郡内郷村大字宮下不動澤炭礦で、現在百廿餘名の労働者を使用してゐるが休業中はその半數を坑内排水に従事せしめ残半數は坑外雑夫として使用し各々一圓五十錢の日給を支給して徒食せしめざる様方針を定めたので同坑に在る評議會系の労働者約十名を中心として今後或は何等かの印刷物を配る位の事はあるにせよとして不穩な空氣を醸成するが如き事は

### 簡保資金

錦村へ九千圓

逓信局長の権限で貸付け得る小學校實業補習學校傳染病院等の二萬圓以下の建設資金として仙台逓信局管内自治團體からの借入申込は五十九件六十一萬二千六百六十圓であつたがこれに對し同局では調査の上日本本年度第一回分の貸付けとして決定發表したが申込より減額したもの一件その金額一萬三千圓今回は保留となつたもの五件六萬九千七百

### 募集

文藝其他投稿を募集します

圓でその地はすべて申込通りの貸付けをなすこととなつた事業種目は全部小學校の建設資金で石城郡内では錦村の四千圓五千圓二口である

### 御禮

過日出火の際は多大の御盡力を賜りまして難有御禮申上げます、御蔭様で調理場も理想的に改造完備いたしましたので

明五日（第二丑ノ日）より開店いたします、皆様の御同情に對し萬一の御報恩にも

### 出前の迅速 家族的接待 尤も美味な調理

に格段の御勤めをいたしまして當日の御來店の方には差上げたう御座いますから、御涼みがた是非御はこびを御待ちいたします。

### イワキ食堂

平町紺屋町縣社通り（電話四六〇番）  
美味で 評判の

### 二見ヶ浦の波打際

餘りに勝子嬢の變死  
悲しい

父河井醫學士の悲しみ

常には鞍掛山の翠影を水に映じて浪じづかなる二見ヶ浦のあたりも未だ全く時化おさまらぬ二日の午過ぎは砂に濁つた大浪りどつかと崩れる波がしがら一齊に白く沸々と泡立つて沖天の波しぶきに濡乍ら低く飛ぶ海鳥の聲も悲しく常ならば鏡面の波濤に青螺の姿涼しい二見の岩もとすれば波ともやどの陰慘なとばりに打ち消され勝ちで四邊の風物

いとと凄涼なる日ではあつた、人の思ひなる佛滅のその日よ！  
その日少女は學校の放課後をいつもの變つた時化の恐ろしい海面に驚異の眼をみはりつゝ二見ヶ浦附近の波打ち際をそこはかと歩み廻つた。さくら貝猫貝の美しさを拾ふたいけなこの時の少女にそれから間もなくナビルの様な大波が巨口を

少女かつ子、それは河井院長が目の中へ入れてもいたくない天にも地にもたつた一人のまた娘である、而も世の常の少女とは異なり幼くして生みの母に死別して冬の様に冷たく寂しい境涯に置かれた少女であつた挽歌の様な回春院の松籟をきき乍ら若くして病のために静かに死んでいつた母。そのか細い手を伸べて頑足ない

かつ子のつむりを撫て乍ら容易に恩愛のきづな断ち難げに死んでいつたその母、臨終間際のおぼろな記憶を辿つて雨の如き思慕の念に驅られる時少女かつ子は子供にあるまじき物思ひに供ける事もあつた父なる醫學士は目をしばたいた、これを知ら周囲の人も密かに涙を拭つた

尊い人類愛の見地から日夜恵まらざる多數病者の慈父として聖者の様に生きてゐる父醫學士の石の様な信念もその天にも地にも代へ難いまま娘の死といふ餘りに哀しい現實に當面しては人生のかくまで無常迅速なるに熱い涙の潜みたるを禁じ得ざるものがあらう  
巖巖の上に天をとり立つ豊間の燈臺は昨夜も今宵も同じ様な光りを海面に投げつてゐる